

令和2年度 第3回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和3年1月28日（木）13:30～15:20

■開催場所：天王寺動物園 レクチャールーム

■出席者：

（委員）

植田 麻衣子	植田公認会計士事務所 所長
佐藤 哲也	神戸どうぶつ王国 園長
佐渡友 陽一	帝京科学大学生命環境学部 講師
高瀬 孝司	オフィスT 代表（委員長）
豊島 ひろ江	中本総合法律事務所 弁護士

（大阪市）

有坂 智裕	天王寺動物公園事務所長
牧 慎一郎	天王寺動物園長
今西 隆和	天王寺動物園副園長 兼 天王寺動物公園事務所飼育担当課長
安福 潔	天王寺動物公園事務所保健主幹
中井 康成	動物園改革担当課長

外4名

【議事要旨】

1 開会

2 事務局より資料説明と委員意見

評価基準等の考え方について

資料1・2をもとに事務局より説明

市が評価基準案を作成するにあたり、動物園が専門的な分野であることや、評価に際して意見を申述することになる評価委員会の見解に基づき評価基準を定めるということを中心目標において規定していることから、評価基準等の考え方に関する事務局案に対して、評価委員会としての考え方等を確認するため、委員長の議事進行により審議いただく。

＜評価方法に関する意見＞

- ・行政の評価は、できていなければ点数を引いていく減点方式になりがちだが、減点だけでなく、加点するような評価が必要である。さらに、点数だけでなく、コメントなど定性的な評価を入れながらオーソライズしていく仕組みが求められる。（佐渡友委員）
- ・中期目標の中に収入の確保とか、経費の節減というのがあるが、中期計画の5年間で経費の節減を何%減少させる、そのために年度計画の初年度でどれだけ削減するといった具体的な数値目標が立てられるものについては、個別の業績評価とは別でもいいので立てた方がいい。結果が初年度で出ないかもしれないが、出なかった場合は、なぜだったのかということを見返していけばいい。（植田委員）

＜評価対象に関する意見＞

- ・柔軟な人材の採用や施設整備費の削減といった独法化の趣旨を実現しているか否かを評価するべきではないか。（植田委員）

- ・年度計画や中期計画には、現アクションプラン37項目には含まれないが、中期目標に含まれている組織や人材確保・育成などの項目を入れて評価の対象にもすべき。(高瀬委員長)
- ・単年度の業績評価を行う際に、中期目標の達成を踏まえた評価をすべきではないかと考える。また、評価結果を受けて、次の改善に向けて試行錯誤していく過程自体を評価してもいいのではないかと考える。(豊島委員)

<その他関連意見>

- ・園の打ち出しとしてSDGsというビッグタイトルを表現した方がいいと考える。域外保全にしても、WAZAとの連携にしても保全戦略、福祉戦略も全部これに関わってくることなので、ビッグタイトルにした方が分かりやすいと思われる。(佐藤委員)
- ・中期目標を達成するうえで、アクションプランの37項目を引き継ぎ、足りない分はプラスアルファすると思うが、37項目だけでもかなりの分量で、これを初年度からすべて全力で頑張りますというのは現実的ではないと思う。中期目標を5年後に達成することと、初年度からすべてやるのかという話は別だと思うので、ちょっと強弱をつけるというのも考えるべきではないか。(植田委員)
- ・保全のためとか動物福祉のための寄付を集めて、そのための施設整備をする。そういったところを何らかの形で組み入れていくことをやっていく必要がどこかに出てくると思われる。いきなりは難しいと思うが、どこかでそういうやり方を取り入れていくということは、検討いただきたい。(佐渡友委員)
- ・具体的な保全活動や動物福祉を訴えながら寄付を集めるのは、広報的な意味も含めて効果が大きい。動物園として筋を通して応援を依頼することや、高齢者のための窓口設置が鍵になる。(佐藤委員)
- ・今後、評価委員会が動物園の業績を適正に評価するにあたっては、現場の状況を把握したうえで行うことが必須である。そのため、事務局には評価委員会の議論の前段階で現場を確認できるような運営をお願いしたい。(佐渡友委員)
- ・市が評価案を作成していくことを考えると、動物園を一定程度理解している市職員の確保も大切になってくるので、人事交流など動物園を経験できる仕組みを検討いただきたい。(佐渡友委員)

3 閉会